

アイランダー高校生サミット2024

本誌編集部

開催決定

二〇二五年一月二六日（日）開催

本財団では、包括連携協定を締結している大正大学と共同で「アイランダー高校生サミット2024（以下、サミット）」を、二〇二五年一月二六日（日）にオンラインにて開催いたします。

本サミットは、全国の離島に所在する高校などに通う生徒を対象に、参加者をオンラインで結び、それぞれの島が持つ可能性や島同士で交流することの意味・価値などを議論することで、生まれ育った島に対する思いを育み、将来の島づくりを担う人材の育成を目的としています。初開催となった昨年度は全国一七校から五〇名を超える離島、高校生の参加がありました（※1）。

「アイランダーコミュニティ」

を創ろう

サミットの企画・運営は、離島の高校に通う生徒九人（原則的に過去のサミットの参加者から選定）と、大正大学生四人で構成する実行委員会（田中晴樹委員長、詳細は委員名簿参照）が担います。

今年度のテーマは「合縁島縁あいえんとうえん」つなげよう、つながろう、私たちの「離島」。これには、それぞれが生まれ育った場所、高校生と大学生、実行委員と参加者など、地理・年齢・立場の垣根を超えて「離島」というキーワードでつながり、自分たちが暮らす島はもちろん、日本全国の離島の持続可能な未来をもに考えることで、進学などで島を離

れた後も島に関心を持つ人たちが集う「アイランダーコミュニティ」を創ろうという思いが込められています。

八月二日（金）、実行委員全員が東京に集まり、文部科学省においてサミットの開催記者発表を行いました。田中晴樹委員長による開催概要や目標についての説明に続き、各委員が自らの口でサミットに懸ける思いや意気込みなどを語りました。

「島に住んでいて、少子高齢化などの問題を肌で感じる。同じような現状にあるいろいろな島の高校生たちと話し合うことで、自分の島の課題解決に活かしていきたい」（板垣秋佳里委員）

「自分の島に関心を持つこと、他者の島のことを知ること。そこで得たこと



アイランダー高校生サミット2024の実行委員13名。

委員名簿

委員長：田中晴樹(大正大学地域創生学部4年)

副委員長：平野彩音(同上)

委員：井出泰生(大正大学地域創生学部3年)、森田小雪(同左)、板垣秋佳里(北海道奥尻高校2年)、赤坂紗和子(広島県立大崎海星高校3年)、花田光(広島県立広島散智学園高校3年)、泉和穂(長崎県立五島海陽高校2年)、片山瑛里衣(同左)、貴松梗(屋久島おおぞら高校〈通信制〉3年)、森太陽(鹿児島県徳之島高校2年)、新城向日葵(沖縄県立宮古高校3年)、石垣鈴(沖縄県立八重山高校3年)

を進路や日常生活につなげられるようにしたい」(貴船梗委員)

「島で生まれ育った者にとって、離島留学などで島外から島の高校にきた生徒と接する機会は貴重。島の出身として自分も頑張らないと、という思いを強くする」(石垣鈴委員)

記者発表には新聞社や通信社をはじめ多数のメディアが集まり、その様子は多くの媒体で報じられました。

離島高校生の積極的なご参加を！

現在、サミットに参加する離島の高校生を募集中です！ 申し込みは公式

ウェブサイト(※2)から行なうことができます。

また、サミットに関心のある生徒、親御様、教育関係者の方々からのご相談や問い合わせも受け付けております(問い合わせ先は左記参照)ので、気軽にご連絡ください。

なお、昨年のサミットの模様は、本財団ウェブサイトから視聴可能です(※3)。ご参照ください。

離島高校生の積極的なご参加をお待ちしております。

(森田)



※1



※2



※3

アイランダー高校生サミットに関する
ご相談・お問い合わせ
(公財) 日本離島センター
03・35591・1151(森田)